

今年後半の高い潮位について

- ◆ 7 月から 12 月にかけては、全国的に潮位が高くなり、浸水や冠水が発生しやすくなります。
- ◆ 特に、東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下が大きい地域では、浸水や冠水に一層の注意が必要です。

7 月から 12 月にかけての潮位は、海水温が高くなることなどの影響で最も高くなり、沿岸地域では浸水や冠水が発生しやすくなります。

特に、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴い顕著な地盤沈下が生じた岩手県から茨城県にかけての沿岸では、天文潮位^{※1} で見た場合、今年後半（7 月から 12 月）の潮位は春先と比べて、最大で 30 センチ程度高くなる見込みです（昨年の夏から秋の潮位と同程度で、加えて今年も 12 月にも潮位が高くなる場所があります）（別紙図 1、表 1 参照）。このため、これらの地域では、大潮の満潮時を中心に浸水する範囲が拡大するほか、浸水の深さが増す、浸水する時間が長くなるなどの場所もありますので注意してください（別紙図 2 参照）。また、台風や低気圧が接近すると、さらに潮位が高くなりますので、より一層の注意が必要です。

なお、その他の地域でも大潮の満潮の潮位が高くなりますので、地元気象台から発表される潮位情報や高潮警報・注意報に注意してください。

平成 24 年の各地の天文潮位は気象庁ホームページの潮位表でご覧いただけるほか、岩手県から茨城県にかけての 12 地点については、毎時潮位カレンダーとして、1 時間毎の天文潮位も掲載しています。

【潮位表】

<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/index.php>

【毎時潮位カレンダー】

http://www.data.jma.go.jp/gmd/omp/311/tide/takashio_portal.html

※1：月と太陽の運行をもとに計算した潮位の予測値

【本件に対する問い合わせ先】

気象庁地球環境・海洋部海洋気象課

海洋気象情報室（電話：03-3212-8341 内線 5154）

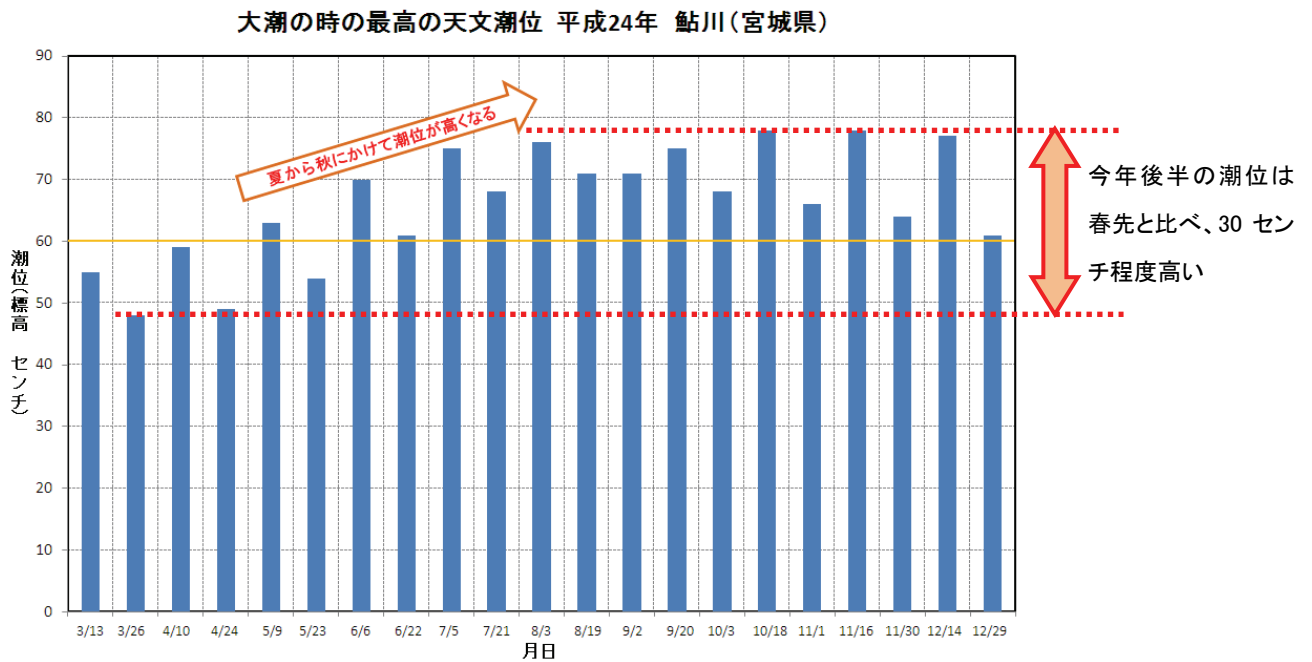


図 1：大潮の時の最高の天文潮位（鮎川の例：3月以降）

グラフの日付は、大潮の時に満潮の潮位が最も高くなる日を表します。（黄色線は高潮注意報の暫定基準を示しています。）

鮎川の例では、今年後半（7月から12月）の大潮の時は、春先の大潮（3月26日の新月の前後）と比べて、最大で30センチ程度高くなります。

また、台風や低気圧の接近・通過によって、さらに潮位が高くなることがあります。

表 1：平成 24 年 7 月以降の満月と新月の日

月	日		
7 月	4 日 (満月)	19 日 (新月)	
8 月	2 日 (満月)	18 日 (新月)	31 日 (満月)
9 月	16 日 (新月)	30 日 (満月)	
10 月	15 日 (新月)	30 日 (満月)	
11 月	14 日 (新月)	28 日 (満月)	
12 月	13 日 (新月)	28 日 (満月)	

これらの日の前後数日間が大潮の時期にあたります。

なお、満潮の潮位が最も高い日は、東北地方から関東地方北部の太平洋沿岸においては、多くの場合、満月や新月の日よりも1日～4日遅れて現れます。また、同じ大潮でも満潮の潮位が最も高くなる日は地点によって異なる場合があります。

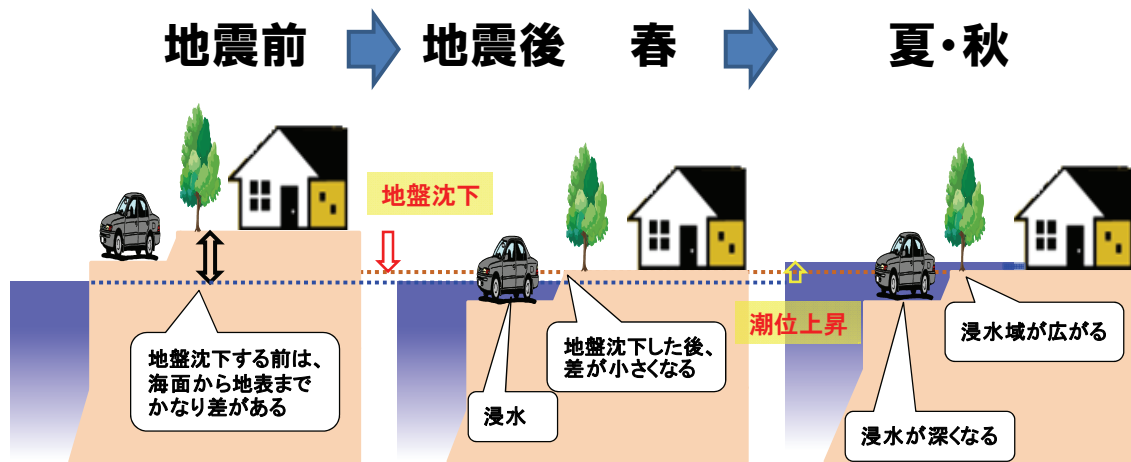


図 2：地盤沈下した地域の夏から秋にかけての潮位のイメージ

夏から秋にかけては、冬や春に比べて潮位が高くなります。このため、地震後の地盤沈下の影響で浸水が起きている地域では、浸水の深さがさらに増大するほか、冬や春に浸水していない地域でも大潮の満潮時を中心に浸水するおそれがあります。